

企業を訪ねて 8

株式会社ブルボン(食品製造業:柏崎市松波4丁目2番14号)

■「食」を通して皆さまの豊かな暮らしに貢献

平成24年3月5日(月)、柏崎市の株式会社ブルボン本社に吉田康代表取締役社長を訪ねました。長年にわたり、「食」を通して皆さまに愛され、豊かな暮らしの実現を目指す活動や取組みについて伺いました。



吉田 康 社長 (株式会社ブルボン本社にて)
(左:聞き手 原 利昭 本学地域産学交流センター長)

聞き手◆貴社の企業精神について教えてください。

吉田氏◇当社は柏崎市内の和菓子の老舗「最上屋」から発祥し、大正13年に創業いたしました。関東大震災の時には関東方面から日本海側への物流がストップした窮状を見て、地方にも菓子の量産工場が必要であると感じ、保存食となるビスケットなどの生産を手掛けてきました。平成7年1月、ペットボトル入りミネラルウォーターの生産開始日が阪神淡路大震災と偶然重なり、急遽この水を関西地域に支援物資として送りました。その後、持ち歩きできるサイズの水がほしいというお客様の声があり、500mlミネラルウォーターの生産に着手しました。当時500mlのペットボトルは国内では他に1社のみが製造していたと思いますが、現在、500mlのペットボトル飲料が普及していることを思いますと皆様のニーズにいち早く対応できたのではないかと感じています。また、その当時、乾パン製造は休止していましたが、非常食としての必要性を再認識し、再び製造に着手しました。災害時のみならず、社会の皆様が“今”求めていることをいち早く察知し、少しでもお役に立てるようなことを実践したいという思いを持って社員一同取り組んでいるところです。当社は「響働」の合言葉のもと、お客様、お取引先様、株主様、また社員を含め、お一人お一人と心を合わせ、目的に響き合って共に歩んでいきたいと考えています。

◆東日本大震災における避難所では、ブルボンのビスケットが大変好評だったと聞いています。長年、「食」という観点から見まして、社会の変化などはどのように感じられていますか。

◇昔はスーパーマーケットなどへのリーズナブルな価格に対応した大量生産が主でしたが、コンビニエンスストアの

普及により、お客様の様々な要望に応えるため、多品種少量生産でもコスト競争に対応できるように取り組んできました。各業界、または店舗ごとに、様々な陳列棚の形状があることを踏まえて開発を行い、幅広い年代の生活スタイルの変化に合わせた商品づくりを行いました。当然のことながら、表現デザインの工夫や楽しい印象を持つていただけるようなエンターテインメント性を付加することも心がけています。

◆商品の安全・安心といった面から、リスクマネジメントについてはどのように取り組まれていますでしょうか。

◇以前に乳製品を取り扱う大手食品会社の大規模な食中毒の問題がありました。当社としてもその際に組織や管理体制について抜本的に見直し、事故防止のために生産ラインを停止するなどして確認するシステムや体制としています。環境リスクマネジメントの面からも細部項目からなる報告書を作成し、検証しているところです。

◆本学教員と食品に関連する共同研究を行っていただいております。感謝申し上げます。社員様を拝見していますと皆様が意欲的に業務に取り組まれていると感じますが人材育成についてはどのようにお考えですか。

◇特別なことではありませんが、社員が業務に関連することを自発的、積極的に習得できるような社内体制や環境づくりを推進しています。

◆貴社及び食品製造業界全体の今後についてはどのようにお考えでしょうか。

◇現在、経済環境は円高や原材料価格の高値推移の状況となっています。また、安定した調達と商品の供給を行っていかなければなりません。国内外のメーカーとの競争や海外のM&Aの状況なども踏まえ、様々な面からの対応が必要と考えています。

当社は、商品の開発から製造までを自社で一貫して行っています。今後は健康という観点を更に見つめ、新しい分野に取り組んでいきたいと思っています。

海外生産という面では、いち早く進出する企業が多かったと思いますが、当社は国内基盤をより確固たるものにしてから、8年前に中国に進出しました。現在はアメリカに法人を設立し、定期的にアメリカ、中国、日本を結んでテレビ会議システムを用いて情報の共有化を図り、国内外での業務の拡大を図っているところです。

◆【お話を伺う中で、時代のニーズを素早く捉え、皆様に喜ばれる事業をいち早く手掛けられていることを改めて認識いたしました。お忙しいところ誠にありがとうございました。】